

逗子の景観まちづくり

瓦版 第八十五号

上を向いて歩こう

「上を向いて歩こう」の作詞家、永六輔さん。お母さまが亡くなった時、歩いて哀しみをぬぐったと聞いたことがある。「歩く」という行為は身体を前に運ぶだけでなく、考えも前に進めてくれる。後ろ向きになってしまふ時こそ、歩いた方がいい、とそれ以来、実行している。



絵：吉澤 富雄

二〇二四年十月十五日 次号は一月発行予定
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集 逗子の景観スケッチや六百五十文字以内の
景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六
逗子市逗子五丁目二番十六号
「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」
電話 〇四六・八七三・一一一
ファックス 〇四六・八七三・四五二〇
machi@city.zushig.jp

逗子を歩きながら、空を見上げ、匂いを感じ、季節の移ろいを知る。暑い暑いと思っていたが、セミの鳴き声は止み、トンボが飛び始めた。雑草はだんだんと枯れ、どこからかキンモクセイが香ってきた。

仕事柄、「逗子の良さはどこですか」と聞かれることが多い。その際は、海、山はもちろんだが、市内を流れる田越川を挙げる。川沿いの散歩道は新宿から桜山、逗子、久木、沼間と変化があつて飽きない。こんなところに公園が、とほっこりすることもある。

そうそう、今年四月、大雨が降った翌日、大きなカメが泳いでいたっけ。

十月、市内の木々が色づき始める。山の木々はもちろん、舗道の木々も装いを変えていく。日没時間も早くなった。子どもたちの帰宅の合図でもある防災行政無線の鳴る時間も今月一日から十六時半になり、チャイムも「逗子市歌」に変わった。まだ少々違和感があるが、違和感があるからこそ気になってしまふ。そのうち夕景に似合うようになるだろう。



絵：吉澤 富雄

昭和四九年四月に市歌に制定された歌詞には海と砂浜、披露山に神武寺、田越川、彼方に見える富士の嶺が歌いこまれている。五〇年経ってもこれらの景観が歌いこまれていることに納得できる。これらの景観の良さは変わっていないのだ。

熱中症になる心配も軽減した。景観に身をゆだねて、上を向いて歩こう。

桜山在住 げんまこと



市制 70 周年記念 景観シンポジウム・景観広報誌『瓦版』展示開催



令和 6 年 6 月から 8 月まで「まちなみデザイン逗子の実践スポット」として応募されたものから認定を行い、その中からより優れているものを「まちなみデザイン逗子賞」として表彰します。逗子の美しいまちなみや景観を保全し、また作り育てていくために、これからの景観づくりのヒントを多数紹介する他、トークインとしてこれからの逗子における景観づくりについて共有する時間も設けますので、是非お越し下さい。

開催日時：2025 年 1 月 25 日（土）10：00～12：00

場所：逗子文化プラザさざなみホール（景観シンポジウム・展示）

プログラム

第1部 表彰・認定式（条例部門・応募部門）

第2部 会場一体型トークイン 認定事例はこちらから →



【憩いのスポット ポケットパーク】

蘆花記念公園（長柄桜山古墳群を含む）ランドデザイン

蘆花記念公園は、風光明媚な逗子市の特徴を表す風致公園として市民に愛されていますが、一部の施設は、法令上や老朽化等の問題により長らく利用されていない状態が続いています。

しかし、近接する長柄桜山古墳群第1号墳の整備完了、公開に伴い、ビジターセンターや公衆トイレ等の整備も望まれる一方、地域住民からは、津波避難対策や備蓄等の防災機能の向上を望む声があります。

このため、公園内にある各施設のあり方を単体で考えるのではなく、公園全体に長柄桜山古墳群を含めた一体のエリアとして、地域住民や公園利用者と対話をしながら逗子市の魅力向上に資するランドデザインを描くことになり、3回のワークショップを経てランドデザイン案がまとまりました。詳細と今後の予定については、ホームページをご覧ください。

エリアマップとゾーニング

ホームページはこちらから ↓

